

平成 23 年
3 月 24 日

病害虫発生予報 4 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病 1

果樹共通：カメムシ類（越冬世代成虫） 2

施設野菜（イチゴ，促成トマト，促成キュウリ，促成・半促成ピーマン）：灰色かび病 . . . 3

【その他の病害虫】 3

麦類，メロン

・ 今月の気象予報 4

3 月 11 日に発生した地震に伴い、3 月中旬以降の巡回調査は現在中止しております。
このため、今回の予報内容は 3 月上旬までの調査データ等に基づいて作成してありますので、
掲載していない病害虫の発生についても十分注意してください。

最新の農薬登録内容は、（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

ナシの開花は平年並と予想されるため、果そう基部での発生時期も平年並であると予想される。

昨年 10 月下旬の調査で、秋型病斑の発病度、発生地点率ともに平年よりやや高かったため、菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。

[防除上注意すべき事項]

黒星病菌は落葉上で越冬して、第一次伝染源となるので、圃場内に落葉が残っている場合はロータリーですき込む等、適切に処分する。

りん片、芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋めるなど適切に処分する。

りん片脱落直前および落花期の DMI 剤散布は特に重要なので、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて確実に実施する。

薬剤散布は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [秋型病斑調査]

昨年 10 月下旬に、ナシ黒星病の秋型病斑調査を行ったところ、発病度は 1.2 (10 年中 3 位、図)、発生地点率は 72% (10 年中 4 位、データ省略) であった。前年の秋型病斑の発病度が高くなると、翌年の 4~5 月の発病葉率も高くなる傾向にある (図)。

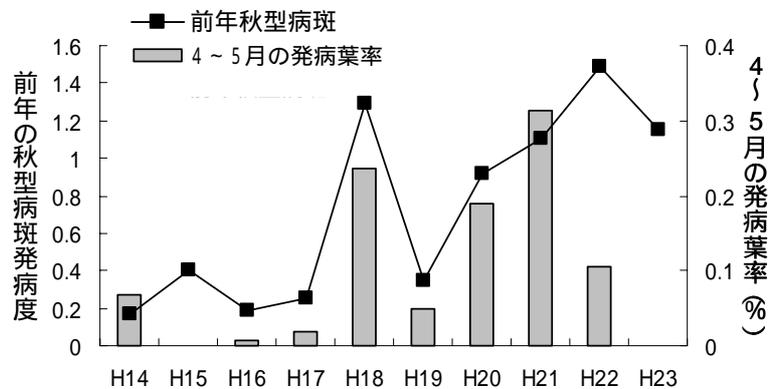


図 前年の秋型病斑発病度と4~5月の発病葉率

発病度は 1 圃場あたり 300 葉調査し、以下の式で算出した。

発病度 = (2A+B) / (2×調査葉数) × 100

A : 病斑が葉全体の 1/2 以上に認められる葉数。 B : 病斑が葉全体の 1/2 未満に認められる葉数。

果樹共通

1. カメムシ類（越冬世代成虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	チャバネアオカメムシ: やや少ない	県下全域
	クサギカメムシ : 多い	

[予報の根拠]

本年 2 月上旬の越冬量調査におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数は平年よりやや少なく、クサギカメムシの越冬成虫数は過去 4 年と比較して最も多い。

[防除上注意すべき事項]

ナシ園では、5 月に多目的防災網（6 mm 目または 9 mm クロス目以下）を張ると防除対策として有効である。

防除所レポート [越冬量調査]

本年 2 月上旬に県内 42 地点の山林の表層土を含めた落葉 30L を採集し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量を調査したところ、越冬量は 1 地点あたり 0.2 頭、越冬地点率は 12% であった（図 1）。

昨年 9 月下旬に越冬トラップを設置（笠間市）し、本年 2 月上旬にトラップ内で越冬しているクサギカメムシ成虫数を調査したところ、越冬量は 1 トラップあたり 46.7 頭であった（図 2）。

防除所の過去の調査より、カメムシ類の越冬量が多い年は、予察灯への誘殺数も多くなる傾向にある。

本年はクサギカメムシの越冬量が多いため、クサギカメムシの発生量は多くなることが予想される。

防除所では、引き続きカメムシ調査（予察灯やサクラなどにおける発生状況調査）を行っていくので、今後の情報に注意する。

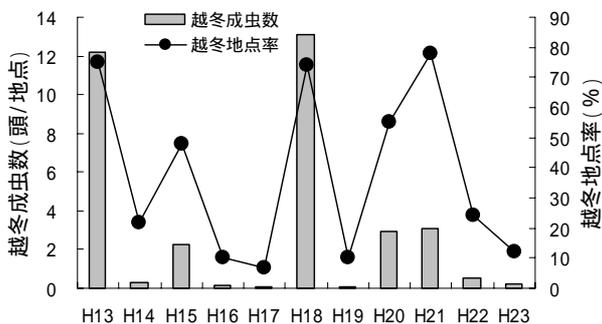


図1 チャバネアオカメムシ越冬量の推移

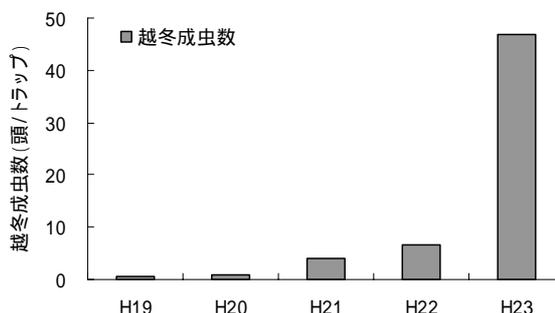


図2 クサギカメムシ越冬量の推移

防除所レポート [施設野菜の灰色かび病]

灰色かび病は、20 くらいの高湿条件下で発生が多くなる。向こう 1 か月の気象予報によると、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多いと予想され、特に発生を助長する条件ではない。しかし例年 3 月から 4 月にかけて発生が増加する傾向があるため(図)、今後の発生には十分注意し、以下のことを参考に防除を行う。

ハウス内が高湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

花落ちが悪い花卉や、罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

薬剤防除の際は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。

また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

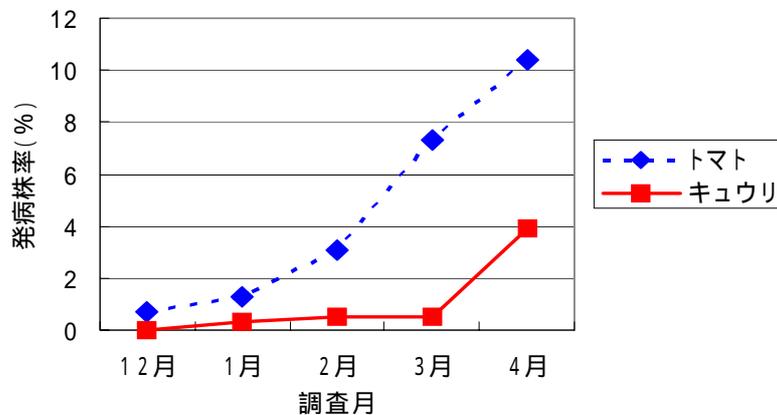


図 県内における灰色かび病の発生推移 (過去 10 年の平年値)

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
麦類	赤かび病	発生時期： - 発生量： -	薬剤散布の開始時期は、小麦・六条大麦では出穂期～穂揃い期に開花を確認した時、二条大麦では穂揃い期の 10 日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時である。麦の生育状況を正確に把握して、適期に必ず薬剤散布を行う。 (4月上旬発表予定の病害虫速報等参照)
メロン	べと病	発生量：平年並	3月上旬現在、平年並の発生である。
	つる枯病		
	菌核病		

. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月19日から4月18日)

気象庁(3月18日 発表)

< 特に注意を要する事項 >

期間の前半は気温が平年よりかなり低くなる時期がある見込みです。

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	40	40	20
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

< 1週目の予報 > 3月19日(土曜日)から3月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

< 2週目の予報 > 3月26日(土曜日)から4月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

< 3週目から4週目の予報 > 4月2日(土曜日)から4月15日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。